

認知症

徘徊によるトラブルを減らすために

状況によっては、保護されたときに「自分の身元」を伝えることが困難なこともあります。事前に対応策を検討し、ご本人様の身の安全を確保できるよう対策を練っておきませんか？

対策1 靴の内側に名前、連絡先を書いておく



例 白井 太郎
047-×××-×××

※注意点:玄関には記入した靴のみを置くようにしましょう。

:靴に記入が難しい場合、いつも着て行く衣類のタグ等へ記入する方法もあります。

対策2 いなくなったとわかったらすぐ警察へ連絡を

最寄の交番／印西警察署生活安全課 0476(42)0110

※24時間可



時間の経過とともに搜索範囲が広がっていきます。家族で探す前に警察へ連絡することでスムーズな搜索につながります。

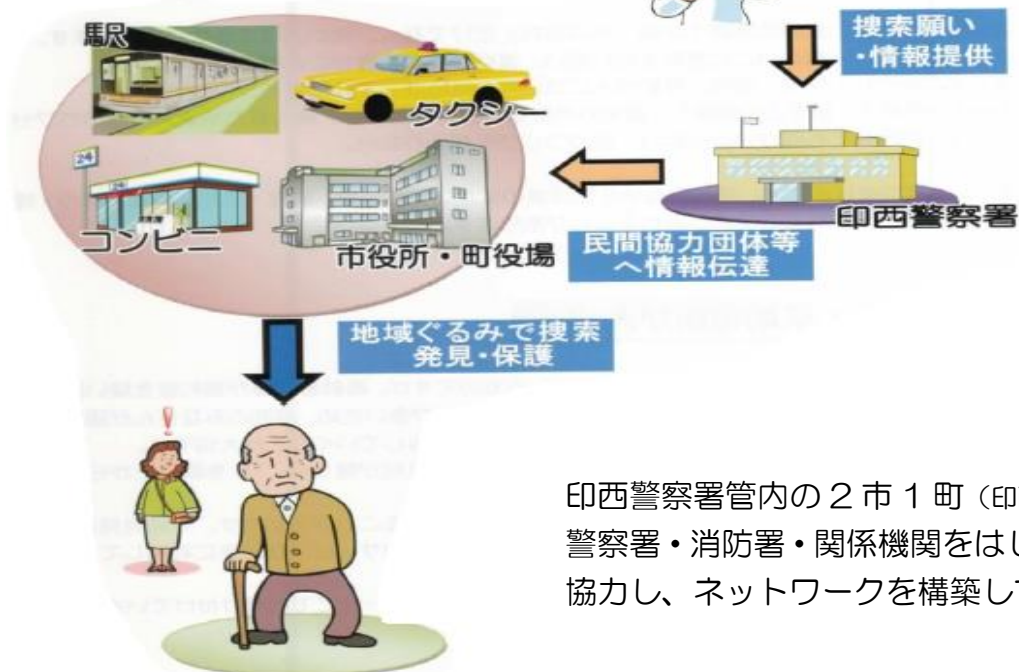


印西警察署からのメッセージ

白井市徘徊高齢者を早期発見・保護する仕組みや対応策について

『SOS ネットワーク』

～印西地区（2市1町）地域で連携～



印西警察署管内の2市1町（印西市/白井市/栄町の一部）と、警察署・消防署・関係機関をはじめ、約150の事業所が協力し、ネットワークを構築しています。

『徘徊について理解する』

※全て脳で起こっている認知症の症状です。

直前のことを覚えられなくなるため、最初は目的を持って出かけても、何をしにきたのかを思い出せず、徘徊につながる可能性があります。

記憶障害

徘徊が起る原因

適切な判断ができなくなるため、道に迷っても人に聞く、電車に乗るなどの判断が難しくなります。

判断力の低下

自分が今いる場所が分からなくなり、不安からあちこち歩き回る行動に出ることがあります。

見当識障害

市内では小学生から大人まで認知症サポーターを養成。8,180人（H31.2月末現在）



認知症サポーターは認知症を正しく理解しあたたかく見守る人です。

※認知症ねっと「第25回徘徊」参考

対応策の提案:無理に止めずに一緒に見守る協力者を増やす。環境を整える。

徘徊は、行方不明や事故などを起こす可能性もあり、家族にとってはとても負担が大きいものです。徘徊の効果的な防止方法はなかなか見つかりませんが、できることから予防策を試してみることはとても有効です。また、ご本人の出かけようとする気持ちを無理に阻止するのはかえって状態を悪くします。「近所やお店のの人に一人で歩いている姿を見たら家族に連絡をお願いしておく」など一緒に見守ってもらえる協力者を増やす、「ケアマネジャーに相談して介護サービス利用や民間サービス利用の方法を検討する」など家族の負担軽減策が本人のためになることもあります。

問：白井市役所高齢者福祉課地域包括支援センター 047-497-3474